



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教110~120周年

標語

共に生きる
いのちの天幕を
広げよう

1963年9月20日 第3種郵便物認可 (毎月一日発行)

2024年2月1日 (木) 第835号

発行所 福音新聞社 (1部100円)

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3202-5398 info@kccj.jp

発行人/ 梁榮友・編集人/ 鄭守煥

印刷所 青丘文化社

伝道主日
説教

伝道の火をつけよ

<使徒言行録 16:6~10>

具滋佑 牧師 (東京希望キリスト教会)



今日の本文には世界の歴史を変える大きな出来事が記されています。パウロが宣教戦略の新たな転換期 (Turning point) を迎える内容です。パウロ一行が福音を携え、どのようなきっかけをもってヨーロッパ地域に初めて行くことになったのが書かれています。しばらく難しい時期を過ごした教会は「伝道の火が消えかかっている」と胸を痛めています。聖霊の導きによって、今一度伝道の火をつけなければなりません。

1. 聖霊の導きに敏感になる (6~8節)

「彼らはアジア州で御言葉を語ることを聖霊から禁じられたので」(6節)使徒パウロとシラスは福音を伝えるためアジア州に向かいました。しかし聖霊は彼らがそこで福音を伝えることを禁じました。彼らは多くの教会を開拓し、力強く福音を伝え、御言葉が盛んに広まっていきました。しかし彼らの働きは予期せぬ方向転換を迎えました。聖霊は彼らがアジア州で福音を伝えることを止めたのです。

私たちは自分の計画や意図が神の御旨と異なる場合があるということを認めなければなりません。伝道の歩みが常に順調にいくとは限りません。時には、予期せぬ障害に行く手を阻まれます。また神が私たちの道をふさがれることもあるのです。しかしそれは失敗ではなく、聖霊の導きを良く見分けて伝道するための機会です。これによって私たちは自分の計画に執着し過ぎることなく、神の御旨に耳を傾けることの大切さを学ぶのです。私たちが働く中で直面する様々な困難や失敗は、神のより大きな計画の一部であるかも知れません。これらの状況は私たちが伝道の方向を再考し、神の御旨をより深く尋ね求める機会を提供します。

ですから、伝道者の皆さん、聖霊の導きに耳を傾け、主の御旨を深く考えましょう。いかなる状況においても謙遜で柔和な心をもって神の導きに従いましょう。その道を歩み続ける中で、神は皆さんを通して力強い伝道の業を起こされるでしょう。

2. 切に求める魂に心を向けよ (9節)

神はパウロとシラスに、マケドニアの助けを求める人々のところに渡って行くように、幻を通して語られました。これは単なる地理的な移動の指示ではなく、霊的な渇きをもった人たちに福音を伝えるための深い招きでした。

マケドニアの人たちは、経済的・社会的には発展していましたが、霊的な面では深刻な渇きを覚えていました。彼らは偶像を崇拜し、人本主義的な生き方をしていましたが、その中で真の満足を見出すことができませんでした。これは今日

の私たちの社会とよく似ています。私たちの周りにも経済的・社会的な平安と自由を求める人たちが多くいます。何よりも私たちの周りには神の愛と救いを渴望する多くの人たちがいます。その中の一部は教会を離れてしまった人も知れません。また一部は罪からの解放を求めているかも知れません。また、福音を聞くだけでイエス・キリストを受け入れる準備ができていてもきついているでしょう。伝道はこのような渇きをもった人たちに心を向け、その必要を充たすことのできる福音を伝えることです。

私たちの責任は、このような人たちのところに向き、福音を伝えることです。私たちが彼らに福音を伝えなければならぬ、彼らはそのまま放置され、霊的な渇きに留まるほかありません。私たちはこのような時代の要求に耳を傾け、伝道の使命を忠実に果たしていかなければなりません。

3. 渇きをもった魂に向かうことを躊躇しない (10節)

本文10節には、「パウロがこの幻を見たとき、わたしたちはすぐにマケドニアへ向けて出発することにした。マケドニア人に福音を告げ知らせるために、神がわたしたちを召されているのだと、確信するに至ったからである」とあります。

パウロとシラスは神の導きに即座に応答しています。それは伝道の緊急性を意味しています。パウロとシラスは聖霊の導きに従い、ためらわずにトロアスに下りました。これは神が彼らに与えた召命であったし、彼らはすぐに応えました。ここで私たちは神の招きに即座に応答することの大切さを学びます。伝道することをためらう余裕はありません。最良の機会が「今日」です。

私たちは神の促しを受けたとき、世に向かって走っていかなければなりません。ビーチにいるライフセーバーのように、私たちが霊的に溺れている魂を発見したときは、躊躇することなく走っていかなければなりません。福音を伝えることが完璧でなくても良いのです。大切なことは行動することです。パウロは確信を持ってマケドニアに走って行きました。その結果、福音はヨーロッパ全域に広がって行きました。

私たちは目を大きく開け、助けを求める魂を見つけて走っていかなければなりません。小さな献身が大きな奇跡を起こすことがあります。私たちは助けを求める者ではなく、誰かを助けるキリスト者になろうではありませんか。私たちが伝える福音を通して多くの魂が神の愛を体験し、新しい生き方ができるようにしましょう。

聖霊の導きに敏感でいて、切に求める魂に心を向け、渇きをもった魂に喜んで走っていきましょう。ハレルヤ。

西部地方会

第18回信徒の集い開催 席上献金を西部青年会に捧げる

1月26日(主)に第18回信徒の集いが西部地方会信徒部の主催により神戸教会堂で開催された。コロナ禍のため3年ぶりの開催となったが、7教会約80名が参加した。

第1部の礼拝では、信徒部長の尹鐘憲牧師(明石教会)による「私は神の作品です」(エフェソ2:10)というメッセージがあった。席上献金は西部地方会青年会の活動のために捧げられた。

第2部では証しの時間を持ち、青年会の高由美執事(神戸教会)、女性会の大山京子勸士(川西教会)、壮年会の林英幸長老(武庫川教会)から、それぞれ感銘深い証しを聞くことができた。

その後、グループに分かれて、「今のわたしに何ができるか」というテーマで意見交換をした。短い時間であったが、久しぶりに地方会内の教友たちと顔を合わせて、それぞれの信仰の思いを共有できる貴重な時間となった。**(報告:崔美恵子)**



関西地方会

2024年新年査経会開催 総会長の梁榮友牧師を講師に迎え

関西地方会伝道部主催の2024年新年査経会が、「神様と共に歩む信仰生活」を主題に、1月14日(主)と15日(月)の両日にわたって開催された。

今回は、総会長の梁榮友牧師(武庫川教会)を講師としてお招きした。

1日目は午後3時から大阪教会で行われ(77名参加)、「神と共に歩んだギデオン」(士師記6:11~14)という主題で説教がなされた。

2日目は午後7時から京都教会で行われ(43名参加)、「神と共に歩んだ信仰者」(ヘブライ11:5~6)という主題で説教がなされた。

また、同日午後3時から、京都教会にて伝道部長の趙永哲牧師(大阪北部教会)を講師として、「ポストコロナ時代における牧会」(マタイ16:23~24)という主題で教役者セミナーが開催された。**(伝道部長 趙永哲牧師)**



西部地方会

韓日交流信徒大会を開催 10の分団に分かれて諸問題意見交換

1月8日(成人の日)に在日大韓基督教会西部地方教会・日本基督教団兵庫教区共催による第38回韓日交流信徒大会が教団甲東教会で開催された。

この大会は、1984年に在日大韓基督教会と日本基督教団との間に結ばれた宣教協約をふまえ、西部地方会と教団兵庫教区とが協約の実践をめざし、1985年以来、毎年1月の成人の日で開催してきたものである。

当日111名(西部地方会29名、兵庫教区82名)というたくさんの参加者を得た。開会礼拝は菱田聡一郎(教団甲東教会)大会委員長の司会で進み、「一つの霊に結ばれて」(エフェソ2:11~22)と題する新堀真之牧師(教団甲東教会)の説教があり、同牧師の祝祷で礼拝を終えた。席上献金はカヨ子基金(孤児の家)のためにささげられた。10の分団に分かれ昼食を共にし、互いの交わりと信仰生活上の諸問題に対して意見交換をした。引き続きフルート奏者として若松裕子(在日大韓川西教会)姉妹のフルート演奏があった。

また岩村義雄牧師(神戸国際キリスト教会)による「主よ、あなたは私の神」という講演があり、ロシア・ウクライナ戦争、直近の能登半島地震など弱者への過酷な現実を牧師の視点で説明された。残されたものがキリストの真意を理解しながら御言葉に接し福音が広まって欲しいと理解した。

阪神大震災を経験した私達には新年1日の能登半島地震が切実で皆が牧師の講演に聴き入った。**(報告:神戸教会 金武博)**



西南地方会

新年査経会及び都諸職会開催 朴榮哲牧師(対馬めぐみ伝道所)を講師

1月14日(主)福岡中央教会(オンライン併用)で新年査経会及び都諸職会が行われた。講師は朴榮喆牧師(対馬めぐみ)。40名以上が参加し福音の知恵と愛餐の時を分かち合った。「それぞれの立つ場所が福音の希望の内であり、それぞれの命には宝がある」と神は語る。その御言葉は、わたしたちの人生を動かす原動力となる。大切な問いかけは、私たちの日常を神の御業に委ねるといふ視点変化ができるかということ。

目には見えないが先立つ神のお働きは、いつも、生きる者に救いを語っておられるからだ。ただ、自分自身の力に焦点を当ててしまえば、この声は聞こえない。いつも神に委ねる時、見えないものが確信され、神との歴史が始まると言う。

それら聖書の御言葉を、朴榮喆牧師の干証と併せて聞きながら、先立つ神の奥行の深さを感じた。対馬宣教に神のご計画が溢れているように、西南地方会の各教会及び、兄弟姉妹全ての命が、神を起点とする福音の希望の内にあると励まされる。そして、神の救いにより生かされている確信に命を動かされ、その恵みを干証する働きの大切さを分かち合った。また、3年ぶりに信徒同士が顔を合わせ交われる時間が与えられた査経会に感謝する。



大阪 KCC

館長離・就任式行われる

新たに申容燮牧師が就任

去る 1 月 21 日、大阪教会において、在日韓国基督教会館 (KCC) 第 4 代館長李根秀牧師の離任と第 5 代館長申容燮牧師の就任式が執り行われた。

KCC 書記理事である朴成均牧師の司会で執り行われ、説教は理事長の金鐘賢牧師が「小さくされているイエスに仕える宣教」という主題で KCC の持つ宣教的使命について熱く語った。

李根秀牧師の離任においては総会長の梁榮友牧師が謝辞を述べ、申容燮牧師の就任においては第 2 代館長であった李清一牧師が激励辞を述べた。

祝辞は関西キリスト教代表者会議の議長の磯晴久聖公会主



教、総幹事の鄭守煥牧師、韓国基督教長老会バウム教会の全根榮牧師からの映像メッセージが流された。

李根秀牧師は簡潔に感謝を述べると共に申容燮牧師は力強くこれからの決意を述べた後、前理事長の鄭然元牧師の祝辞で閉会した。

総会事務局

総幹事離・就任式行われる

新総幹事は牧会を兼務しながら業務

去る 2024 年 1 月 9 日 (火) 総会事務局において、金柄鎬前総幹事の離任と鄭守煥新総幹事の就任式が行われた。

総会書記李明忠牧師の司会、副総会長の申大永長老の祈祷、副総会長の張慶泰牧師の説教の後、業務の引き継ぎと日本キリスト教協議会の金性済総幹事からの激励辞などで進められた。

新総幹事の鄭守煥牧師は事情によって新居浜グレース教会の牧会を兼任しながら総幹事の業務を全うすることになり、月に 1 回程度上京、またはオンラインでの重要な業務を行い、他の業務は幹事としての役割を前総幹事の金柄鎬牧師が続けて助けることとなった。



京都南部教会

趙鳳濟名誉長老が召天

京都南部教会建築委員長として尽力



京都南部教会の趙鳳濟名誉長老が 2024 年 1 月 6 日に天に召され、京都南部教会において新井由貴牧師の司式により葬儀が行われた。享年 87 歳。

故人は、1936 年日本で生まれ、1980 年に金徳化牧師より受洗、1993 年に長老に将立された。また、京都南部教会建築委員長として尽力した。

京都教会

金正煥引退長老が召天

「不良長老」という書籍を出し、奉仕



京都教会の金正煥引退長老が 2023 年 12 月 30 日午前 2 時 56 分、生涯を終えて天に召された。享年 84 歳だった。

京都教会において林明基牧師の司式により葬儀が行われた。

故金正煥長老は「不良長老」という本を出版し、すべてが神さまの恵みであったと語っている。本に書いてある通り、神さまのために奉仕し、仕えてきた。

《手帳の訂正と追加》

下記の通り、今年の手帳の訂正及び追加をお知らせ致します。

- (1) 武庫川教会 長老 崔美恵子
〒538-0053 大阪市鶴見区鶴見3-13-53 電話06-6913-6856
- (2) 李根秀牧師 関西 隠退牧師
〒557-0032 大阪市西成区旭3-3-10 電話090-7006-2337
- (3) 大阪教会 文哲順名誉長老住所
〒547-0041 大阪府大阪市平野区平野北1-10-5-503

隠退牧師動静

大阪西成教会金元治元老牧師



金元治牧師は今年の 4 月で満 102 歳になります。1992 年に隠退し、奈良市三碓のカエルが合唱する田んぼに囲まれた家に引っ越されました。隠退後もそこから毎月一度説教に来られましたが、90 歳近くになると年に 2、3 度くらいになり、90 歳を超えてからは、それも難しくなりました。2015 年からご夫妻で京都の故郷の家に入所されました。そこでの日曜日の礼拝で説教や祈禱を頼まれたらこなしておられました。

金元治牧師は現役の間から、冗談で人を笑わせたり、総会などで大きな声で叱責したりすることはありましたが、口数が少なく口の重い方でした。2020 年 11 月に朴貴洙母任が天に召されてからは、寡黙の傾向が強くなりました。

コロナ禍にあっても正月や誕生日には遠方からも子たちや孫たちが挨拶に集まり、それがかなわないときには、タブレットのビデオ通話で顔を見せてうなずくこともありました。日曜日の礼拝には続けて参席していますが、以前のようなご奉仕はできなくなっています。車椅子の日常生活でも、ほとんどあれこれ要求されないのが、故郷の家の職員が感心しています。解放前 (戦前) 「以北」から松山の高校に留学させてくれたご両親のいた故郷を偲んでおられるのか、車椅子に座りながら、静かに時を過ごしている姿が印象的です。

韓日対照聖書販売

各ページの左に韓国語 (改革改正訳)、右に日本語 (新共同訳) が掲載されています。



- A5 版変型・1760 ページ、革製
- 価格: (2 月 29 日まで) 3,000 円 (消費税・送料込み)
- (3 月 1 日以降は) 4,000 円 (消費税・送料込み)

※お求めは総会事務所へ

2024年/第38回「外国人住民基本法」の制定を求める 全国キリスト者集会宣言

私たち「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会」(外キ協)は、2024年1月25日～26日に第38回全国協議会を日本バプテスト広島キリスト教会において開催しました。「21世紀移民社会の宣教課題～第三期外キ協を構想する」との主題のもと、各地外キ連および外キ協加盟各教派・団体、韓国基督教教会協議会の代表者ら41名が参加し、「外国人住民基本法」「人種差別撤廃基本2024法」「難民保護法」の実現に向けて、歴史を直視し、日本で働く移住者や難民、在日コリアンの現状に聞き、その支援と、現状を変革し和解と平和を目指す日・韓・在日教会、市民社会の共同課題を確認しました。

協議会では、「技能実習」制度から「育成就労」制度への移行が、不当な実態を温存したまま検討されている問題点が指摘されました。「ソーシャルブックカフェ・ハチドリ舎」は、社会課題をめぐって対等な立場で対話する場を形づくってきました。一般社団法人「ええじゃん」は、格差と分断が広がる社会にあって、広島県内のさまざまな立場の外国人と出会い、隣人として相談、学習・就労支援等に携わってきました。「アトゥトゥミャンマー」は、クーデターに対するミャンマー人の抵抗運動への連帯から学び、祈りを合わせることを中心として、小規模の支援に徹しながら、募金活動による本国支援、日本での在留資格取得等の活動に携わってきました。また聖書を通して、神が寄留者を選び取り、歓待と友愛を呼び覚ます「祝福」を使命として託されたこと、イエスご自身が寄留者として居場所を持たない者の居場所を作るために生かされたこと、そして、人間の権威主義支配に抗して、歓待と友愛の天幕を共に広げる教会としてイエスに従っていくことを示されました。

紛争や民衆弾圧によって難民・避難民が多く生み出されている現状にもかかわらず、日本では国際人権基準に反して難民申請中であっても強制送還を可能とする入管難民法の改悪がなされました。これに対して外キ協は「入管難民法の改悪に抗議し、難民・移民と共に生きる共同声明」を出すと共に、「難民・移民なかまのいのちの緊急基金」を起ち上げ、難民・移民をめぐる厳しい現状に当事者たちと共に立ちむかい、「あなたのことを決して忘れない」とのメッセージを発し、マイノリティに苦難を強いるマジョリティ社会を変革していくことを志しました。

在日コリアンをはじめ諸外国人住民の指紋押捺拒否の闘いへの連帯の中から、すでにそれぞれの「草の根」で運動を展開していた各地「外キ連」が結集して、1987年外キ協は全国的ネットワークとして結成されました。日・韓・在日教会の共同課題として外登法問題に取り組み、指紋押捺拒否者の逮捕、再入国不許可、在留更新不許可といった弾圧を闘い抜いて、指紋制度の全廃を勝ち取りました。

この成果を土台に外キ協は「外国人住民基本法(案)」を作成し、日本が国際人権規範に則り外国人の人権を保障する「多民族・多文化共生社会」の実現を目指す第二段階の取り組みを開始しました。

21世紀に入り、「テロ対策」を口実としたマイノリティへの敵視・排斥、またヘイトスピーチ・ヘイトクライムが昂進する中、外キ協は、戦後補償問題をはじめ、日韓の市民社会が直面する諸問題を共有し、日本社会から排斥されて人間としての尊厳までも奪われている外国人住民の人権獲得の闘いへと導かれていきました。

これらの到達点を確認して、外キ協は、オンラインを含めた情報発信や交流の機会を積極的に持ち、地域・世代・国籍を超えた様々なネットワークを形成しつつ、第三期の新たな展開を構想し、次世代に手渡していく務めを負っていきます。

私たちは今日、日本バプテスト広島キリスト教会を会場に「第38回『外国人住民基本法』の制定を求める全国キリスト者集会」を開催し、現状の課題を確認し、神ご自身が寄留者となって分かち合われる祝福を示されました。その祝福に向かって進む解放のネットワークを広げつつ、新たな福音宣教の歩みを踏み出すことを私たちは決意します。

2024年1月26日

第38回「外国人住民基本法」の制定を
求める全国キリスト者集会 参加者一同
外国人住民基本法の制定を求める
全国キリスト教連絡協議会



韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

- B6版変型・1483ページ
- 価格：2,500円
(消費税・送料込み)
- ※お求めは総会事務所へ

讃頌歌委員会より「子どもさんびか」が 発行されています。

主の祈り・使徒信条・交読文・十戒
集録(いずれも韓国語・日本語)
一冊1,000円
お問い合わせは総会事務局へ
電話 03-3202-5398

